安寧

兵庫縣姫路護國神社社報
「安寧」第五号
発行所　兵庫縣姫路護國神社
〒六七〇―〇〇二　姫路市本町一一八
電話　〇七九―二二四―〇八九六
安寧（あんねい…世の中が穏やかで平和なこと）

ホームページアドレス　http://www.himeji-gokoku.jp/

英霊の言乃葉

一輪の花

陸軍中尉　加藤出雲命

昭和十五年十月十七日
中支・安徽省獅子嶺にて戦死

一方は畑で他方は傾斜していて泥が深い。道は悪い。

その畑を通っていたのだが、きれいな花が一輪泥の上に美しい顔を見せていた。

尖兵の将校がその花をよけて横の泥深い処を迂回して歩いていた。花の上を踏んで歩く方が泥も少く近道でもあるのだが、花をふみくだくに忍びなかったのだ。

次を歩いている男もそれにならって花をよけて通った。次々に兵隊はわざわざ泥の道を遠回りして歩いた。

部隊が通り過ぎた後にはきれいな花が泥の上に浮かんでほのぼのとした美しさを見せていた。行軍に疲れた時、実際ぬかるみ道は倍疲れる。そんな時にさへも、たった一輪の花もふまずに通って行った兵隊の心情が嬉しいのだ。

新年を迎えて

午前零時平成二十四年を迎える太鼓とともに、新年万灯祭の提灯に次々と灯が灯り沢山の参拝者から拍手と歓声が上がった。日の出前の午前六時頃には毎年恒例になったボーイスカウトの少年達が皆で参拝し、社頭前で姿勢を正したまま、鼻先やほっぺを真っ赤にしながら宮司のお話に耳を傾けていた。この時の気温は四度。その後も吟道摂楠流の方々や都山流姫路尺八同好会の方々が訪れ、次々に演奏を奉納された。元日の午後からは、大勢の参拝者が訪れ一時は鳥居から外の歩道まで続く長蛇の列となった。

社頭神札所でも終日、神札・御守り、干支の置物、破魔矢、絵馬などの縁起物を求める参拝者で賑わった。新年万灯祭の提灯の下では遺族であろう方が家族と共に提灯に手を合わせている姿があった。この光景が今後も続いて行くことを切に願う。鳥居横にある絵馬は若い女性デザイナー二人が協力して描いている。今年で三年目を迎え寅年からはじまり、兎、今年の辰とこれまで三作品を提供されたが、どれも力強く尚かつ繊細で明るい作品となっている。今年の作品は社務所と会館の間に飾られているので、神社に訪れた祭は是非ご覧になってください。

靖國神社でも

東京九段の靖國神社では全国神社奉納絵馬展が元日から一月末まで開催されており、当神社も絵馬を奉納。参道には三二四社の絵馬が飾り付けられていて、参拝者は故郷の神社を探す人や郷土色豊かな工夫を凝らした絵馬を熱心に見入る人で溢れていた。

表紙の英霊の言乃葉について

旧陸軍の移動は主に徒歩であった。満州事変や支那事変を戦った先人達も、広大な支那大陸を戦地から戦地へと部隊は徒歩で移動する。これを行軍（こうぐん）という。移動すると言ってもただ歩くだけではない、戦うためや生きるための装備を背負って移動するのである。その重さ約三十キロ～五十キロ、それを背負って何十キロ、長いときは何百キロ歩くこともある。歩くところは道ばかりではない、道なきところも進まねばならない。とても大変で満足な水や食料もなく体力の消耗も激しい。しかし、彼らは一輪の花も踏まずに回り道をしたのだ。粘り強くそして心優しい人達だったことが、この手紙でよくわかる。

崇敬奉賛会新年祈願祭

一月九日は崇敬奉賛会新年祈願祭が開催された。参集殿に入りきれないくらいの参加者が集まった。祭事の中で巫女による舞の奉納の後、三宅会長が玉串を奉り参加者は会長と共に二拝二拍手一拝で新年を祈願した。直会では声楽アンサンブル「レースライン」によるミニコンサートが開催され、女性だけの柔らかい歌声に参加者は聞き入っていた。また聞くだけでなく、新年に相応しい日本の唱歌「一月一日」、「お正月」、「ふるさと」そして「海ゆかば」などは参加者も一緒に歌った。その他、「ペチカ」や「この道」などバラエティに富んだ曲目を十曲余り熱演していただいた。「海ゆかば」については、コーラスの指導をなさっている奉賛会会員の長船先生から第二国歌といってもよいくらい昔は親しまれていたという説明をしていただいた。

また、この企画が持ち上がった時にコーラスメンバー自らが「是非、海ゆかばを歌いたい」と長船先生に進言されたそうである。合唱の後は戸井田真太郎氏のマジックショーと題して氏に手品の披露をしていただいた。短い時間であったが素人と思えない手さばきで観覧している人達を驚かせていた。

直会で挨拶される三宅会長

女声コーラス「レースライン」の皆さん

建国祭

二月十一日には神武天皇が橿原で御即位されてから二千六百七十二年を迎える建国を祝う式典が開催された。祭事の前には泉宮司の「三種の神器のお話」中島剛先生の「神武天皇の勅」三木先生の「教育勅語の徳目に学ぶ」とそれぞれの先生方の講演会が行われた。祭事には学生服を着た少年の姿もあり、毎年少しずつではあるが参加者が若返っているように思える。祭事の後は境内で各代表が登壇され日本国についてそれぞれの思いをお話しされた。

その中で、「建国という言葉は日本において、そぐわないのではないかと思う。日本という国は人工的に創られた国ではなく神代の時代から自然発生的に出来た共同体のようなものなので、建国と言うよりは、やはり紀元節と言った方が相応しい、日本のはじまりと言った方が理解されやすいかもしれません」というお話しをされた。そして「紀元節の歌」を皆で合唱した。若い人達も、この話を聞いて紀元節の歌の意味を理解されたのではないかと思う。日本国が二千六百七十二年を迎えられたことをお祝いし日本が未来永劫に続きますように万歳三唱して式典は閉会。

その後も参加者によるバザーやおうどん、手作りケーキとコーヒーなどが販売され、寒い一日だったが境内は大勢の人で賑わい、日本について語り合う一日となった。

建国祭での様子

日本人の自虐史観と音楽

長船義夫

一、

我が国は昨年の東日本大震災と政権の混乱により、先の大戦以来最大の国難に直面している。東日本大震災以降、被災各地での慰問やチャリティコンサートで必ず演奏される文部省唱歌「ふるさと」の歌詞や旋律が、今日ほど日本人の心を揺さぶることがあっただろうか。

近年、教育音楽の分野では、長い年月、日本人が歌い続けてきた「ふるさと」や「冬の夜」「埴生の宿」などに歌われている家族や故郷を愛おしむ名曲が教科書から次々と消え去っている。ある時期から、フォークソングやアニメソング、Jポップなどの曲がやたらと教科書に掲載されるようになり、十年ほど前から、共通必修曲であった「花」「早春賦」「赤とんぼ」などの名曲が、教師の選択如何では歌われなくなりつつある。このようなことで、日本の子どもたちに日本人としての情操がまともに育つだろうか。少なくとも戦前の日本人の多くが外国曲を含む沢山の唱歌、叙情歌に親しみ、自然に情操や道徳観、愛国心、美しい日本語、歴史観などを学んでいった。先の大戦で、我が国の礎になられた若干十代後半から二十代前半の戦没者の方々のご遺影やご遺書や日記などに接すると、彼らが歌った懐かしい歌の思い出や格調高い言葉、筆跡などが至る所に見られる。そのことに想いを馳せるとき、昨今、卒業式のたびに話題にのぼる国旗、国歌訴訟問題の次元の低さに呆れ果てている。卒業式と言えば、卒業式歌「仰げば尊し」「蛍の光」も殆どの教育現場で歌われなくなって久しい。

先日、宝塚音楽学校の卒業式で、これらの二つの名曲を涙ながらに歌う学生たちの報道を見て、熱いものが込み上げてきた。私も数日前、最後の勤務校、姫路市立琴陵中学校の卒業式に参列し、ステージに掲げられた大日章旗を前に、全校生徒、全職員、会参列者による見事な国歌斉唱が行われ、卒業生、在校生による万感の想いが込められた「仰げば尊し」「蛍の光」も聞くことができた。そして、テレビ報道で被災地での卒業式でも同じ光景が見られたのがせめてもの救いであった。前記の国旗や国歌、卒業式歌などについて、常識では考えにくい著しく歪んだ解釈をする人たちが少なからずいるが、そういった人達に高校野球、オリンピックなどでの国旗掲揚や国歌斉唱をどう解釈しているのかを聞きたい。また、ニュース番組で、あの瓦礫と化した被災地に日の丸が立てられていた光景を見たとき、涙が止まらなかった。

国旗、国歌に反対する人たちは、その行為が個人の思想や信条への侵害ではなく、単なる屁理屈でありマナーの欠如以外の何物でもないことに気づかないのだろうか。

二、

私は長年公立学校の音楽教師を勤めてきたが、その経験から、あまり指摘されない教育音楽の分野について私見を述べたい。ご存知のように教育現場は、「平和」「戦争反対」などのスローガンがあらゆる事柄に優先される。従って先の大戦までは教育現場で歌われていた儀式曲（紀元節、海ゆかば、お正月など）、戦時歌謡も含む軍歌（広瀬中佐、婦人従軍歌、水教営の会見など）これらの歌はとんでもない代物として無視されてきた。しかし、同じ教育現場でありながら、外国の軍隊で演奏される軍歌や行進曲、並びに名曲に指定されている溢れんばかりの愛国的心情が表現されている楽曲が流され、教科書や教育現場で使用する合唱曲集に出てくるのである。

以下、現行教科書などの事例を幾つか挙げてみる。「海のマーチ」（原曲はアメリカン巡邏兵）、「誰かが口笛吹いた」（原曲はフランスのサンブル・エ・ミューズ連隊行進曲）、「クワイ河マーチ」（原曲はイギリスのボギー大佐）「マーチ」（アメリカの戦争映画、大脱走のマーチ）、鑑賞曲ではシベリウス作曲の交響詩「フィンランディア」（ロシア帝国圧政下のフィンランド人の強烈な愛国的心情を表現）、スメタナ作曲の交響詩「わが祖国」から「モルダウ」（オーストリーハンガリー帝国時代の圧政下にあったチェコスロバキアの強烈な愛国的心情を表現）、チヤイコフスキー作曲の「大序曲一八一二年」（ナポレオン軍に勝利したロシアの戦勝記念に作曲された名曲）、モーツァルト作曲「トルコ行進曲」、ベートーヴェン作曲「トルコ行進曲」…これらは当時、ジルジャン・シンバルを高々と打つトルコ軍のパレードの印象をピアノ曲にまとめたもの。シューベルト作曲「軍隊」行進曲、シューマン作曲「二人の擲弾兵」、「リパブリック讃歌」（アメリカ南北戦争時の北軍の軍歌）、グラナハム作曲「いざたて戦人よ」（祖国を守る兵士の強固な心情を歌っている）、ベルディ作曲「兵士の合唱」、「ロンドンデリーの歌」（イギリスの出征兵士を想う母親の心情を歌った名曲）…体育大会や演奏会場で演奏されるマーチ「ナイルの守り」、「銃声」、「星条旗よ永遠なれ」…これら外国の愛国曲は教育現場やコンサートホールで日常茶飯事演奏され続けている。

翻って、我が国はと問えば、国歌さえ軍国詩主義の象徴のごとく揶揄され、「戦友」に歌われている、命をかけた戦友愛、砲弾炸裂する戦場で赤十字の旗のもと敵味方の区別なく傷病兵の手当をする婦人たちを描いた「婦人従軍歌」などの名曲が、なぜ軍国主義の歌と言われるのか私には理解できない。

幸い、数多く発行されている日本の抒情歌集やBS日本の心の歌の番組などで、沢山の戦時歌謡も取り上げられているのは喜ばしいことである。日本人の自虐史観や前記のダブルスタンダードに終止符を打つ時期が来ているのではないか。皆様にご一考願いたい次第である。

（元　公立学校音楽教師）

記憶

大西　豊

いつの頃からだろうか？私には、気になる存在があった。遠い記憶の中にあるそれは祖父の家の仏壇にあった船の写真である。その船は何なのか？当時は知る由も無かった。私の家から祖父の家は近く、幼い頃からよく墓参りに詣でていた。その墓石は他の墓石よりも数段高く見晴らしの良い所にあり、一列に整列し、また先端が尖って一種独特な形をしていた。当時は、さほど気にもならなかったが子供心に祖父の弟二人（私には大叔父にあたる）が軍人であり戦死していたという事だけは朧げながら認識していた。

月日が流れ、私の高校入試の合格発表の日が祖父の野辺の送りの日であった。その前に見た仏壇の船の写真に感じるものがあった。

また月日が流れることになる。

三十才を迎えようとする頃、ある新聞記事の中のコラムに目が留まった。それは、戦死した先祖の足跡をたどり慰霊の巡拝をするというものであった。心が震えたのを今でも覚えている。「そうだ。あの船は軍艦であったのだ。私も大叔父のことが知りたい。」そう思うと居ても立っても居られなくなり、墓に向かい大叔父の名前と戦死した日付を墓前で書き留め、そのまま駅前市役所に駆け込んだ。しかし、この紙を持った不思議な青年を見て、市役所の職員も訝しみ、なかなか資料を出さなかった。思い余って、その記事を見せ、他の市なら見せるのに姫路市では見せないのかという問いにようやく除籍簿なる資料を出してくれた。戦後の混乱もあったのだろうか？大叔父の名前の一部等が靖國神社や姫路護國神社に届けられているものと違っていた。疑問を持ちつつ、その足で姫路護國神社の社務所を訪ねた。泉和慶宮司との出会いである。そこで、除籍簿を示し、護國神社の大叔父の記載事項の訂正を行い、その後促されるままに正式参拝を行った。振り返ってみると、この正式参拝が重要な転換点となる。そして、この除籍簿を持ち兵庫県庁に向かい大叔父の資料の提出を要求した。その面談して頂いた方には、「あなたは、この方々とは血縁が遠すぎる。本当は、親御さんに来て頂きたかった。」と言われたが存在する資料を出して頂けた。深く感謝する次第である。その後、靖國神社にも書類を提出し、無事に戦後の不備を訂正することができた。その報告を兼ねて、墓石を清め墓前で般若心経を読経した。すると、ゴーという風とともに吹きとばされそうになった。大叔父のありがとうという声が胸に届いたような心持ちであった。

私は思う。

遺骨があろうが、無かろうが、そんな事は関係ない。魂は、必らず懐かしいふるさとに帰ってくる。だから、大叔父の魂は、私と共にあると深く思うのだ。人は、必らず死ぬ。しかし、それは目に見える世界の話であり、目に見えない世界では、魂は生き通しである。ならば、何故にこの世界に生まれいできたのか？それは、魂の修行に他ならない。そうして、この世で魂の修行をして、また目に見えない世界に帰ってゆく。私は、そう信じている。そして、その事を気付かせてくれた大叔父には本当に感謝しかなく、それがこの世にいで来る前にした約束であると思う。大叔父との出会いがあってこそ、今では朝夕の祝詞や般若心経も諳んじることができた。普通ではないと思う。休日には、神社・仏閣に参拝し、仏閣では本尊様の前で手を合わせ、目を閉じ静かに読経する。この普通ではない、一種異様とも思えるこの様な行いも、八百万の神々を信じる心も全て、大叔父からのプレゼントであると感じている。

是非とも御願いしたい事がある。御高齢の御遺族の方々、今からでも遅くはない。可愛い孫やひ孫の手を取り姫路護國神社に参拝して頂きたい。自分と同じ血が流れている方々が神としておわすこの神社で必らずや感じるものがあると思う。遺族の神社でないことは重々承知の上であるが、是非とも手を引いて参拝して頂きたいと切に願う次第である。そして、姫路護國神社の護持が、私と大叔父との約束であり、記憶である。

（崇敬奉賛会運営委員・会社員）

日誌抄

二十三年十一月～二十四年三月

平成二十三年

十一月　二日　秋季大祭
十一月　六日　陸上自衛隊姫路駐屯地創立六十年事業参列
十一月　七日　佐用地区慰霊祭③・近畿兵庫県神社庁連合総会京都
十一月十二日　B－グルメにつき神社境内屋台で門前市賑わい十三日まで
十一月十五日　朝来市遺族会慰霊祭
十一月十三日　姫路白鷺ライオンズクラブ五十周年大会
十一月十五日　姫路郷友会総会
十一月二十八日　姫路地区神社関係者大会参加
十二月　二日　赤穂市遺族会慰霊祭
十二月　四日　崇敬奉賛会行事「映画会並びに開戦の詔書解説」
十二月十三日　伊勢神宮新穀感謝祭参列
十二月十七日　日本会議講座
十二月十九日　城東老人会清掃奉仕・兵庫県神社庁姫路支部納会
十二月二十三日　清掃奉仕百名・バザー・映画会正式参拝・自衛隊年末懇親会
十二月二十五日　煤払い祭

平成二十四年

一月　一日　歳旦祭
一月　二日　姫路剣道連盟参拝
一月　三日　会社・団体新年祈願祭三日～六日
一月　七日　日本会議新年祈願祭
一月　八日　出初式消防車清祓
一月　九日　崇敬奉賛会新年祈願祭
一月十一日　姫路遺族会・兵庫県神社庁姫路支部参拝
一月十二日　ゾンタクラブ祈願祭
一月十三日　泉佐野商工会議所祈願祭
一月十四日　古札焼納
一月十九日　姫路工業高校インターシップ
一月二十一日　高松市三社参拝団二百五十名正式参拝
一月二十三日　関電エネルギー懇談会参加
一月二十七日　兵庫県郷友会・姫路地区神社総代会常任理事会
一月二十九日　瑞鳳吟詠会祈願祭
二月十一日　建国祭二百名参拝
二月十一日　廣田神社モデル支部終了奉告祭参列
二月二十七日　鴻池祥肇参議員昼食パーテー
二月二十九日　近畿地区神青連合総会正式参拝
二月　三日　兵庫県遺族会新法人以降祝賀総会へ参加
二月　六日　西播地区総代研修会へ参加
二月　八日　全国護国神社会へ靖国神社
二月十四日　宮司浄階一級昇進につき神社本庁へ
二月十五日　佐用幕山地区遺族会三十四名参拝
二月十六日　廣田神社例祭参列
二月二十日　賀堂流碑祭二百名
二月二十二日　兵庫県神社庁協議員会へ
二月二十三日　神社総代会
二月二十五日　小野田寛郎氏正式参拝
二月二十六日　宮司電気記念日総会に出席
二月二十七日　佐用久崎地区慰霊祭
二月二十八日　商工会議所青年部集会：宮司講演
三月二十九日　宮司関西電力エネルギー懇談会・美浜へ

美しき白鷺宮の結婚式

白鷺宮 参集殿

ご親族のみでのご会食から
ご披露宴（～60名様）まで
専任プランナーが当日まで
サポートいたします

無料相談会
開催中
＊予約制＊

【婚礼受付相談室】
TEL. 079-224-0559
受付時間 10:00～19:00（火曜定休）
E-mail. info@shirasaginomiya.com
※詳しくは婚礼専用HPにて
http://www.shirasaginomiya.com/